

# かわら版

今回は、企画担当者からの寄稿文です。  
映画にかける熱い想いが伝わってきますね。

## 「ゆとろぎ想ひ出の映画鑑」の想ひ出 (芸術鑑賞部会：水野 勝)

平成 26 年 10 月 4 日(土)の第 1 回「ゆとろぎ想ひ出の映画鑑」の上映(作品は「哀愁」)から、もう 4 年の歳月が流れました。今回は、平成 30 年度の上映作品を振り返ってみたいと思います。

第 9 回上映作品は、かの名作「エデンの東」でした。私はこの作品を 12 才の時に観た記憶があります。その当時の学校は、年に数回映画館で名作を鑑賞することがならわしになっていました。観た事は覚えているのですが、内容はほとんど記憶にありません。が、ただ一場面、ラスト近くで兄が列車の窓に頭を打ちつけ、半狂乱になっている姿です。後日、本編を観た時、親兄弟の恐ろしいまでの葛藤が描かれ「エデンの東」という理由がやっと理解出来ました。親になって初めは子供の気持が理解出来ない事が多く、時々我ながら恥かしいのですが、悶々とする事が、この映画とまではいきませんが、理解出来ます。映画というものは(小説もそうですが)、我々の人生が愛なしでは生きていけないことを表現してくれます。そういう意味では、この映画は人生を歩む時の一つの指針になった作品だと想います。

皆さんご覧になっていかがでしたか？

次は区切りの第 10 回です。ある TV 番組を観ていた時、二木てるみさんが出演されていました。懐かしい想い出と同時に彼女の出演した「警察日記」が想い浮かびました。この映画を上映して、ぜひ二木さんに当時の撮影時の想い出をお聞きしたいと、ゆとろぎの関係者に無理をお願いし決定して頂きました。お会いした二木さんは、子供の頃の彼女がそのまま大人になったような素晴らしく可愛い人でした。素晴らしい彼女とのトークショーが終り、映画の上映、そして終了。お客様にお礼をのべている時、ご婦人が私のそばに来て、「私の故郷は福島でこの映画の舞台になった所で、子供の頃の情景が蘇って涙が止まらなくなりました。この映画を上映して頂きありがとうございました。」との事。私も 16 歳の頃まで住んでいた岡山県の片田舎を想い出し、おもわずもらいなきをしてしまいました。映画を上映する度にお客様からこのような激励の言葉を頂きます。

こんな時つくづく想います。「ゆとろぎ想ひ出の映画鑑」を続けてきてよかったと…。

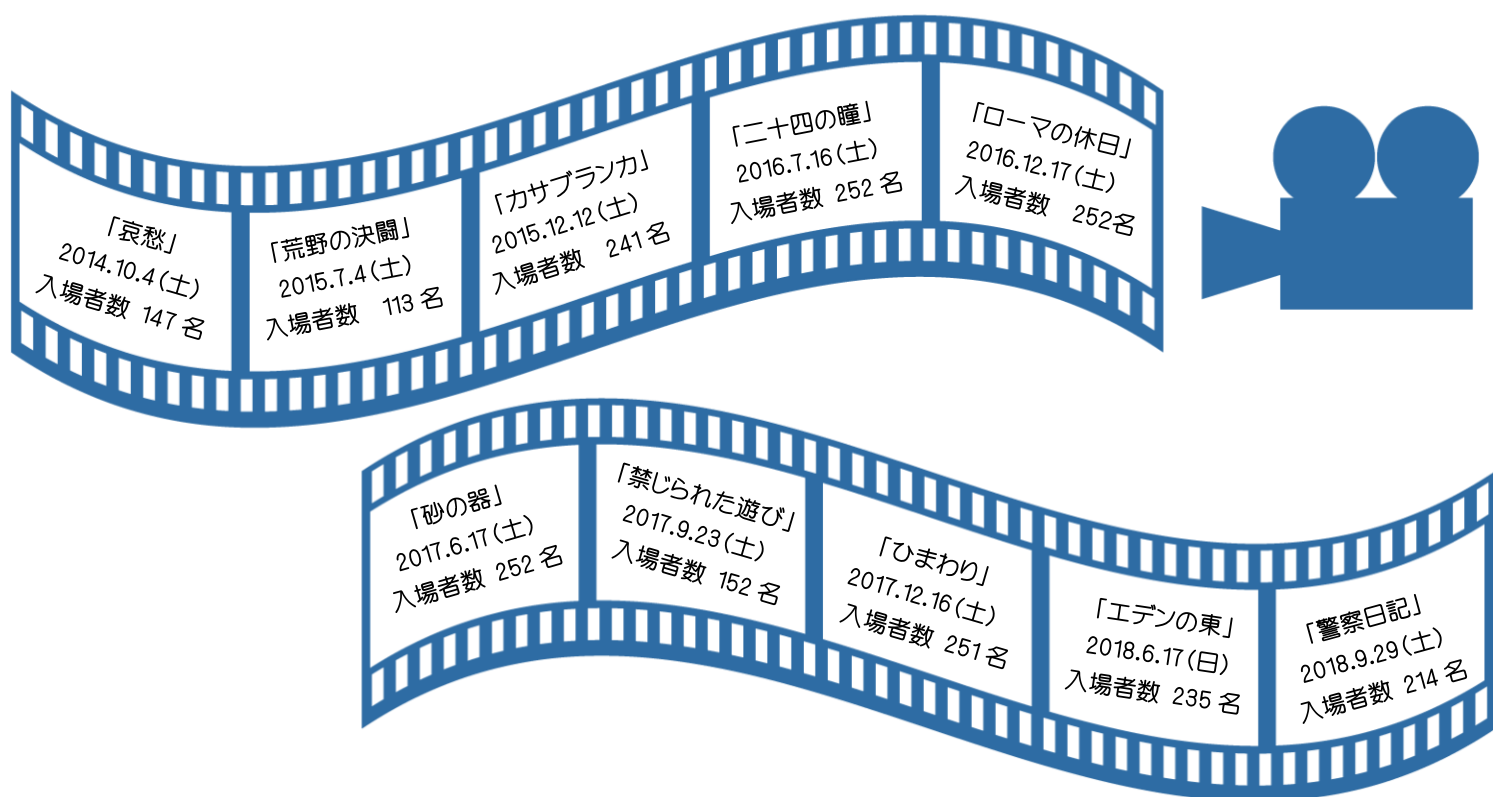
次回は 31 年 2 月 9 日(土)に、ハリウッド・ミュージカルの名作「雨に唄えば」を上映させていただきます。皆さんご存知だと思いますが、どしゃぶりの雨の中で傘をさした主人公(ジーン・ケリー)が唄い踊る名場面が想い出されます。ミュージカルの作品が当時数多く公開されましたが、この作品は他の作品を寄せつけない圧倒的な踊りと唄が観る人の心に残ります。ぜひ「雨に唄えば」をご覧ください。

又、当日は羽村在住の「二又(ふたまた)みづき」さんが、バイオリンで映画音楽をたっぴりと演奏してくださる予定です。お楽しみに…。

## 《ゆとろぎ想ひ出の映画鑑》とは…

ゆとろぎ協働事業運営市民の会・芸術鑑賞部会(市民ボランティア)が企画運営する映画会。他の映画上映会にはない「ピアノ」「ギター」「コーラス」などのミニコンサートを併せ盛り込むなど、楽しい仕掛けが満載です！

### 【ゆとろぎ想ひ出の映画鑑】これまでの上映作品



第11回は、ハリウッド・ミュージカルの名作

## 「雨に唄えば」(1953年作品)

ゆとろぎ小ホールにて 31年2月9日(土) 13:30開場・14:00開演

ご期待ください！！

★入場券は【1月26日(土)】より事前配布します★